



COVID-19 発生後のある私立大学の状況

里見佳子

2020年初頭に新型コロナウイルス感染症が発生し、この1年間大学はどのように変化したのか紹介します。私はこの3月まで私立の医療系大学の薬学部（定員100名）に勤務していました。2020年4月以降、COVID-19対策のため、大学では基本的にオンライン授業が中心となりました。

大学としては初めての経験であり、模索しながら対策を進めました。その後の感染状況に応じて対策の変更や追加が行われ、学生が多く集まる行事などは中止せざるをえませんでした。文科省からの要望への対応にも追われ、さまざまなことに振り回されてきました。

2020年度前期は原則オンラインで、一部実習や6年次生の講義などは感染対策のうえで、対面授業も実施しました。オンライン対応が十分でない学生も多く、スマートフォンで授業を受ける学生もかなりいました。現在も、おそらくスマートフォンで授業を受け続けている学生は少なくないと思われます。

資料の印刷代の負担が大きいとの声があり、プリントを学生に送ることも実施しました。通常であれば、授業中に教員が配布します。また、必要な場合は、限度はありますが、学内で無料印刷できます。

希望する学生にはPCの貸し出しや、講義室でオンライン授業を受けることも許可しました。しかし薬学部では希望する学生はほとんどいませんでした。理由は調査していませんが、電車通学の学生が多く、通学による感染リスクなどを考慮して、希望しなかったのではないかと思います。

5年次生の実務実習は、対面で実習をする場合は、感染対策の徹底が求められました。対面が難しい場合は、オンラインでの課題学習が中心となりました。実習受け入れ先の薬局・病院の実情に応じて、時期の変更・分断などもあり、変則的な実習となりました。前期後半(6月頃)から対面授業を増やすこととなりました。学年ごとに対面授業日を週に1~2回設定し、その他はオンラインとするハイブリッド型を取り入れました。このスタイルは、その後も継続し、感染状況に合わせて対面授業とオンライン授業の比を変更しています。

通常の講義室では密となるため、定員の2倍以上収容可能な大教室で講義を実施することになりましたが、対応できる教室が2つしかないうえ、他学科も使用するため、ほとんどがオンラインになる学年もありました。

前期は、感染対策のパーテーションが間に合わず、マスク、アルコール消毒、換気などに加えて、学生には健康管理表を毎週提出させ、発熱などがあれば出校停止とするなどの対策のうえ、対面授業を実施しました。

食堂は閉鎖されました。対面授業は希望があればオンライン受講も可能とし、感染に不安のある学生が授業を受けられるようにしました。卒業研究は各教室に任せられましたが、wetの実験系では感染対策をしながら実施したところがほとんどでした。卒業研究発表会は、発表者と教員以外はオンラインで聴講する形式で実施しました。

後期は、文科省から対面授業実施の要望があったため、感染が増えている状況のなかで、対面授業中心となりました。パーテーションの設置、着席位置の指定、フェースシールドの配布などの対策をしたうえで、通常の密な教室での授業となりました。希望があればオンライン受講も可能としました。換気のため、窓や扉を開放したため、冬季には寒さ対策として学生には防寒具の着用を求めました。

実習は対面の場合は2回に分けて、1回の人数を減らし、フェースシールド着用で行い、一部オンラインでも実施しました。食堂は再開されましたが弁当のみでした。定期試験は、前・後期とも原則対面で実施しました。

2020年春の卒業式・入学式は学部ごとに短時間で実施しました。2021年春の卒業式・入学式は2部制とし、卒業生と教職員のみでの参加で実施しました。2020年・2021年とも、卒業祝賀会や新入生歓迎会などは中止しました。クラブ活動は当初は全面禁止、2020年後期からは許可制となり、学生には感染対策を行ったうえでの活動を求めています。大学祭は参加者を学内に限定・事前登録制とし、ZOOM配信と合わせて実施しました。

教職員の勤務は、一時感染拡大地域から通勤している場合テレワークが認められましたが、現在は例外的な措置となっているようです。会議は原則としてオンラインとなり、ペーパーレス化が一挙に進み、必要であれば各自が印刷する形式になりました。

2021年度は、当初はハイブリッドで始めましたが、その後の感染拡大を受け、現在はオン

ライン中心となっています。

当大学ではこの1年間で、数名が散発的にCOVID-19に感染しましたが、幸い学内での広がりはありませんでした。比較的小規模（全学生数は約3,000人で2つのキャンパスに分散）の医療系の私学ということもあり、学生への感染対策の徹底や教育もかなりスムーズにできたのではないかと思います。

この1年間、オンライン授業（注1）を実施しましたが、オンラインの方が良いという学生もいますが、やはり多くの学生は対面の方がわかりやすいと対面授業を希望しています。オンライン授業は、学生の自主性・自律性がより強く求められるため、定期試験の結果からも全体的な学力低下と2極化は否めない状況です。また感染対策のため、会話を避けることや距離を常に保つことは学生にとってはかなり難しいことです。

（注1）オンライン授業の方法は大学によりさまざまですが、当大学ではビデオ配信ではなく、ZOOMを利用した方法で実施しており、学生は原則として再度聴講することはできません。

しかし、チャットを利用して質問がしやすいという利点もあります。

1年次生は最初からオンラインであったため、学生同士の繋がりができにくいという問題があります。6年次生は、対面授業を多く実施したこと、6年次までの積み重ねや学生の危機感もあり、国家試験結果への影響はほとんどありませんでした。全国的な合格率は若干低下していますが、COVID-19がどれほど影響したのかは不明です。学年ごとの学生集団の特徴もあり、一概には言えませんが、今後は影響が出るのが予想されます。

オンラインに対応するための金銭的負担もあります。COVID-19感染拡大のためアルバイト（実務実習の前は禁止）が減少するなど経済的な問題から、学生から学費減免や金銭的な援助の要望がありました。しかし、大学はオンライン対応や感染対策に多額の費用が必要なため対応はできないとし、公的な支援の紹介に留まっています。臨床実習前のPCRも検討されましたが、やはり費用がかかるということで実施されませんでした。大学の規模などにより対応は異なると思いますが、小規模大学では実際上難しいのではないかと思います。（医療系大学としては、PCRぐらいはなんとか工夫して実施して欲しいものですが。）

2021年度は、実務実習に行く学生にはワクチンを接種しています。学生全体への接種も7月から予定しています。この1年で感染対策の方法がかなり分かってきましたが、感染力の強い変異株が拡大していることから、全ての授業を対面で実施できるのは、しばらく先になると思います。

（さとみ・よしこ 高知県在住）

連絡先（E-mail：yk2.satomi@sky.plala.or.jp）